

報 告

神奈川県愛川町におけるアカハライモリ *Cynops pyrrhogaster*  
の継続的な観察による生息記録

小林龍太郎・鈴木大輔・安房田智司

Ryotaro Kobayashi, Daisuke Suzuki and Satoshi Awata: Documentation of the  
continued presence of the Japanese fire-bellied newt (*Cynops pyrrhogaster*)  
in Aikawa Town, Kanagawa Prefecture, Japan

Abstract. The habitat of the Japanese fire-bellied newt *Cynops pyrrhogaster* has declined significantly across Kanagawa Prefecture over the past several decades, and the species is listed as “Endangered Category I” in the Kanagawa Red Data Book (2006). In Aikawa Town, Aiko District, *C. pyrrhogaster* was previously considered abundant. However, since 1994, only sporadic records have indicated the presence of the species in Aikawa Town. To clarify the current status of the population, field surveys were conducted in July 2022, July 2023, and March and April 2024 at a riparian wetland adjacent to the Nakatsu River. The species was consistently confirmed in all four surveys, with three adult individuals collected in 2024. These findings suggest that rare species or local populations, such as the Japanese fire-bellied newt, may persist in remaining riparian wetland habitats.

緒 言

アカハライモリ *Cynops pyrrhogaster* (Boie, 1826) は、有尾目イモリ科に属する日本固有の両生類であり、本州、四国、九州および周辺島嶼の温帯地域に広く分布している。かつては水路、水田、池、沼、谷戸田に生息する身近な生物であり（浜口, 1996）、環境指標生物としても知られていた（永井ほか, 1989）。しかし、近年では土地開発、水田の圃場整備などの水辺環境の変化により、各地で生息地が消失し、それに伴って個体数が減少している（新井, 2006; 松井, 2014）。このような状況もあり、アカハライモリは2020年の環境省レッドリストにおいては準絶滅危惧種（NT）として判定されている（環境省, online）。神奈川県においても、かつては広く分布していたと考えられるが（浜口, 1996）、現在の生息域は限定的であり、神奈川県の全33市町村のうち11市町村（愛川町、厚木市、伊勢原市、大井町、相模原市、秦野市、葉山町、平塚市、南足柄市、山北町、横浜市）で生息が確認されているのみに留まる（新井, 2006; 竹内ほか, 2008; 本田・島田, 2009; 佐野ほか, 2017; 松本ほか, 2022; Senzaki *et al.*, 2022）。神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006においても「絶滅危惧I類」として判定されており（新井, 2006）、丹沢山麓など一部の地域を除いて個体数が少ないことが報告されている（浜口, 1996; 竹内ほか, 2008）。なお、横浜市の個体群は西日本からの移入個体群である（松本ほか, 2022; Senzaki *et al.*, 2022）。

神奈川県の北部に位置する愛甲郡愛川町では、八菅橋より上流の中津川右岸の湿地において、かつてアカハライモリが多数生息していたことが知られていたが（新井, 1999）、1994年の夏季以降、同地では本種が確認されなくなったことが報告されている（新井, 1999）。一方で、1994年以降も本種の生息を裏付ける観察例は断続的に報告されており、2002年には八菅で成体の写真が撮影され（丸野内, 2002）、2009年には尾山耕地の水田で幼生の生息が確認されている（倉橋, 2009）。さらに、2011年には水田地帯の池（苅部・西原, 2014）、2015年には八菅山いこいの森においても確認情報がある（山口, 2015）。Senzaki *et al.* (2022) では、愛川町産個体のDNAサンプルが解析に用いられており、これらは2019年（観音崎自然博物館KNM-A24）に採集されたものである（先崎・佐野, 私信）。このように、愛川町においてアカハライモリが生息し続けてきたことは、複数の記録によって裏付けられている（表1）。しかし、これらの記録は散発的な

表1. 神奈川県愛川町におけるアカハライモリ *Cynops pyrrhogaster* のこれまでの報告

観察された年	地域	出典
1994	八菅橋上流の中津川右岸	新井 (1999)
2002	八菅	丸野内 (2002)
2009	尾山耕地	倉橋 (2009)
2011	水田地帯の池	苅部・西原 (2014)
2015	八菅山いこいの森	山口 (2015)
2019	未公開	Senzaki <i>et al.</i> (2022)



図 1. 神奈川県愛甲郡愛川町におけるアカハライモリ *Cynops pyrrhogaster* を採集した中津川に隣接する湿地の景観写真。2024 年 3 月 25 日撮影。

観察報告にとどまっておらず、近年の確実な生息状況を示す資料は限られていた。そこで本報告では、2022 年から 3 年間にわたる調査で得られた観察記録と、神奈川県立生命の星・地球博物館への標本登録をもとに、愛川町におけるアカハライモリの生息状況について報告する。

### 材料と方法

野外調査は神奈川県愛甲郡愛川町を流れる中津川に隣接する湿地で実施した。調査地はヨシ *Phragmites australis* の群落に囲まれた区域であり（図 1）、中津川からの流入と湧水によって形成された湿地である。生息地の詳細については、保全の観点から未公開とした。

調査は 2022 年 7 月 1 日 23 時頃、2023 年の 7 月 30 日 22 時頃、2024 年 3 月 25 日 13 時頃および 2024 年 4 月 7 日 22 時頃に実施した。調査においては、止水域や緩流域を重点的に調査し、水中に潜む個体を徒手採捕した。2024 年に実施した 2 回の調査では、採集した個体を麻酔薬 FA100 により安楽死させた後、99 % エタノール中に保存し、標本として保管した。これらの個体は固定後にデジタルノギスで頭胴長（吻端から総排泄腔後端までの長さ）を計測し、神奈川県立生命の星・地球博物館に液浸

標本として収蔵した（神奈川県立生命の星・地球博物館両生類標本 KPM-NFA001011-001013）。

### 結果と考察

2022 年 7 月 1 日にはアカハライモリ 15 個体の成体、2023 年 7 月 30 日には 5 個体の成体および複数の水生生物の生息を確認した（表 2）。2024 年 3 月 25 日には雄 1 個体（表 3、図 2A）、4 月 7 日には雌雄各 1 個体（表 3、図 2B, C）の生息を確認し（表 2）、採集した。同地点は中津川からの河川水の他、湧水も水源としており、年間を通して安定した水の供給がなされている。そのため、アカハライモリおよび、その他の多くの希少な水生生物の重要な生息場所になっていると考えられる。

日本全国のアカハライモリは大きく 5 つの遺伝的な系統が存在することが知られており（Tominaga *et al.*, 2013, 2015）、外部形態にも地域変異が存在する（Sawada, 1963）。全国の個体群のうち、関東種族のみが尾部先端が丸いという特徴および、固有の腹部斑紋を持つと考えられている（Sawada, 1963）。今回採集された個体の尾部先端は丸く、腹部斑紋も関東種族の示す変異の範囲内であり、明らかに他の地方種族とみなされる斑紋ではな

表 2. 調査において生息が確認された生物, およびその個体数, 成長段階, レッドリストにおける区分

調査年月日	観察された生物	個体数	成長段階	レッドリスト区分
2022/07/01	アカハライモリ <i>Cynops pyrrhogaster</i>	15	成体	絶滅危惧Ⅰ類
2023/07/30	アカハライモリ <i>Cynops pyrrhogaster</i>	5	成体	絶滅危惧Ⅰ類
2023/07/30	シュレーゲルアオガエル <i>Zhangixalus schlegelii</i> (Günther, 1858)	1	成体	要注意種
2023/07/30	アブラハヤ <i>Rhynchocypris lagowskii steindachneri</i> (Sauvage, 1883)	20 以上	成体	準絶滅危惧
2023/07/30	ギンブナ <i>Carassius langsdorfii</i> (Temminck & Schlegel, 1846)	20 以上	成体	絶滅危惧Ⅱ類
2023/07/30	カワヤツメ属の一種 <i>Lethenteron</i> sp.	1	幼体	絶滅危惧Ⅱ類
2024/03/25	アカハライモリ <i>Cynops pyrrhogaster</i>	1	成体	絶滅危惧Ⅰ類
2024/04/07	アカハライモリ <i>Cynops pyrrhogaster</i>	2	成体	絶滅危惧Ⅰ類

\* レッドリスト区分は神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006 (高桑ほか, 2006) に基づく。

表 3. 標本として収蔵したアカハライモリ *Cynops pyrrhogaster* の詳細な情報

採集年月日	性別	頭胴長 (mm)	写真	標本番号
2024/03/25	雄	46.37	図 2A	KPM-NFA001011
2024/04/07	雄	42.86	図 2B	KPM-NFA001012
2024/04/07	雌	60.34	図 2C	KPM-NFA001013

かったため (図 2)、本個体群は在来個体群である可能性が高いと考えられる。今後 DNA 解析による系統比較によって個体群の由来を正確に調査する必要がある。

本研究は、これまで散発的な記録にとどまっていた神奈川県愛甲郡愛川町におけるアカハライモリの生息情報を整理するとともに、中津川に隣接する湿地において、近年でも生息が継続していることを報告した。近年、中津川を含む相模川水系では、多くの河川改修や護岸工事が実施または計画されており (国土交通省, online)、土地改変に伴う湿地環境の消失が危惧される。今回の調査結果から、局所的に残存する河岸湿地には、希少な生物や個体群が現存する可能性があることが示された。このため、改修工事に先立ち、環境アセスメントや生物モニタリング体制の強化が望まれる。

## 謝 辞

神奈川県立生命の星・地球博物館の松本涼子博士には、標本登録および写真撮影に関してご助言とご指導をいただいた。また、金沢動物園の先崎 優氏および観音崎自然博物館の佐野真吾博士には、Senzaki *et al.* (2022) において解析に用いられた愛川町産アカハライモリ個体の採集年に関する未公開情報をご教示いただいた。原稿の改訂に際しては、査読者および編集委員の方々から多くの有益なご指摘をいただいた。ここに感謝の意を表する。

## 引用文献

新井一政, 2006. 両生類. 高桑正敏・勝山輝男・木場英久編, 神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006, pp. 269–273. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.  
 新井一政・木村喜芳・相内幹浩, 1999. 愛川町の魚類. 愛川町郷土博物館展示基調調査会報告書 愛川町の動物, (8): 14–21.  
 浜口哲一, 1996. 神奈川県の両生・爬虫類相の特徴とレッドデータ種. 高桑正敏・勝山輝男・木場英久・苅部治紀編, 追わ

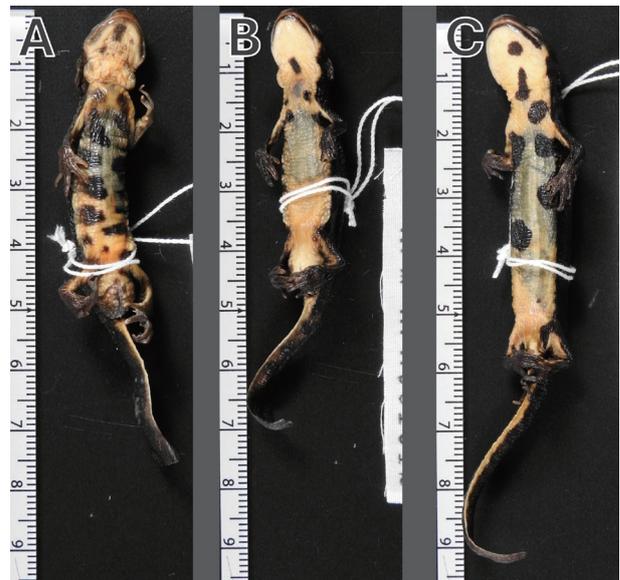


図 2. 採集されたアカハライモリ *Cynops pyrrhogaster* の腹側の写真. A: KPM-NFA001011 (雄, 尾部欠損). 2024 年 3 月 25 日採集; B: KPM-NFA001012 (雄, 尾部欠損). 2024 年 4 月 7 日採集; C: KPM-NFA001013 (雌). 2024 年 4 月 7 日採集.

れる生きものたち: 神奈川県レッドデータ調査が語るもの, pp. 58–61. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.  
 本田数博・島田武典, 2009. 厚木市棚沢の砂防ダム周辺のアカハライモリの確認. 神奈川自然誌資料, (30): 75–76.  
 環境省, online. レッドリスト 2020 両生類. [https://ikilog.biodic.go.jp/rdbdata/files/redlist2020/redlist2020\\_ryouseirui.csv](https://ikilog.biodic.go.jp/rdbdata/files/redlist2020/redlist2020_ryouseirui.csv) (accessed on 2025-June-11).  
 苅部治紀・西原昇吾, 2014. 侵略的外来種アメリカザリガニの駆除. 加藤ゆき・松本涼子・大西 亘編, 特別展 どうする? どうなる! 外来生物 とりもどそう私たちの原風景 展示解説書, pp. 93–95. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 神奈川.  
 国土交通省, online. 相模川水系相模川・中津川河川整備計画. [http://www.ktr.mlit.go.jp/ktr\\_content/content/000707103.pdf](http://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000707103.pdf) (accessed on 2025-June-11).  
 倉橋満知子, 2009. 田んぼの生きもの調査報告. 桂川・相模川流域協議会会報誌あじえんだ, (23): 3–4.  
 丸野内淳介, 2002. イモリ. 自然科学のとびら, 8(4): 25.  
 松井正文, 2014. アカハライモリ. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室編, レッドデータブック 2014 日本の絶滅のおそれのある野生生物 3 爬虫類・両生類, pp. 144. 株式会社ぎょうせい, 東京.  
 松本涼子・広谷浩子・加藤ゆき・佐野真吾・尾形光昭, 2022. 神奈川県横浜市青葉区で発見されたアカハライモリ *Cynops pyrrhogaster* について. 神奈川自然誌資料, (43): 77–82.  
 永井元一郎・坂井正子・安井博司・小杉俊明・寺尾 浩・田中千聖・

- 中井一郎, 1989. 指標生物からみた大阪の河川. 大阪教育大学附属高等学校池田校舎研究紀要, (21): 64–87.
- 佐野真吾・廣瀬隆夫, 2017. 横浜市金沢区におけるアカハライモリの生息地. 観音崎自然博物館研究報告 たたらはま, (21): 23–24.
- Sawada, S., 1963. Studies on the local races of the Japanese newt, *Triturus pyrrhogaster*, I. Morphological characters. *Journal of Science of the Hiroshima University Series B*, **21**: 135–165.
- Senzaki, M., S. Sano, A. Takemoto, I. Miura & M. Ogata, 2022. Phylogenetic origins of a newly found Japanese red-bellied newt population in Yokohama city and other populations in Kanagawa Prefecture. *Current Herpetology*, **41**(1): 132–137.
- 高桑正敏・勝山輝男・木場英久編, 2006. 神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006. 442 pp. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
- 竹内将俊・岡野 紹・関口周一・飯嶋一浩, 2008. 神奈川県秦野市内の一部谷戸水域におけるアカハライモリの生息数. 神奈川自然誌資料, (29): 91–93.
- Tominaga, A., M. Matsui, N. Yoshikawa, K. Nishikawa, T. Hayashi, Y. Misawa, S. Tanabe & H. Ota, 2013. Phylogeny and historical demography of *Cynops pyrrhogaster* (Amphibia:Urodela): Taxonomic relationships and distributional changes associated with climatic oscillations. *Molecular Phylogenetics and Evolution*, **66**(3): 654–667.
- Tominaga, A., M. Matsui & Y. Kokuryo, 2015. Occurrence and evolutionary history of two *Cynops pyrrhogaster* lineages on the Izu Peninsula. *Current Herpetology*, **34**(1): 19–27.
- 山口勇一, 2015. トンボ池の生きもの調査. サークル愛川自然観察会通信 愛川の自然, (24): 2.
- 
- 小林龍太郎・安房田智司: 大阪公立大学大学院理学研究科生物学専攻動物社会学研究室; 鈴木大輔: 東京都立大学大学院理学研究科生命科学専攻動物生態学研究室  
(受領 2025 年 9 月 8 日; 受理 2026 年 2 月 19 日)